

## ネヘミヤ記

## 第一章 ハカリヤの子ネヘミヤの言葉。

第二十年のキスレウの月に、わたしは首都スサにいた時、ニわたしの兄弟のひとりハナニが数人の者と共にユダから来たので、わたしは捕囚を免れて生き残ったユダヤ人の事およびエルサレムの事を尋ねた。三彼らはわたしに言った、「かの州で捕囚を免れて生き残った者は大いなる悩みと、はずかしめのうちにあり、エルサレムの城壁はくずされ、その門は火で焼かれたままであります」と。

四わたしはこれらの言葉を聞いた時、すわって泣き、数日のあいだ嘆き悲しみ、断食して天の神の前に祈って、五言った、「天の神、主、おのれを愛し、その戒めを守る者には契約を守り、いつくしみを施される大いなる恐るべき神よ、六どうぞ耳を傾け、目を開いてしもべの祈を聞いてください。わたしは今、あなたのしもべであるイスラエルの子孫のために、昼も夜も前に祈り、われわれイスラエルの子孫が、あなたに対して犯した罪をさげいたします。まことにわたしも、わたしの父の家も罪を犯しました。七われわれはあなたに対して大いに悪い事を行い、あなたのしもべモーセに命じられた戒めをも、

定めをも、おきてをも守りませんでした。八どうぞ、あなたのしもべモーセに命じられた言葉を、思い起してください。すなわちあなたは言われました、『もしあなたがたが罪を犯すならば、わたしはあなたがたを、もろもろの民の間に散らす。九しかし、あなたがたがわたしに立ち返り、わたしの戒めを守って、これを行なうならば、たといあなたがたのうちの散らされた者が、天の果にいても、わたしはそこから彼らを集め、わたしの名を住まわせるために選んだ所に連れて来る』と。一〇彼らは、あなたがたが大いなる力と強い手をもって、あがなわれたあなたのしもべ、あなたの民です。二主よ、どうぞしもべの祈と、あなたの名を恐れることを喜ぶあなたのしもべらの祈に耳を傾けてください。どうぞ、きょう、しもべを恵み、この人の目の前であわれみを得させてください。この時、わたしは王の給仕役であった。

第二章 アルタシヤスタ王の第二十年、ニサンの月に、王の前に酒が出た時、わたしは酒をついで王にささげた。これまでわたしは王の前で悲しげな顔をしていたことはなかった。三王はわたしに言われた、「あなたは病氣でもないのにどうして悲しげな顔をしているのか。何か心に悲しきものを持っているにちがいない。そこでわたしは大いに恐れて、三王に申しあげた、『どうぞ王よ、長生きされますように。わたしの先祖の墳墓の地であるあの町は荒廃し、その門が火で焼かれたままである

のに、どうしてわたしは悲しげな顔をしないでいられますようか。四王はわたしにむかって、「それでは、あなたは何を願うのか」と言われたので、わたしは天の神に祈って、五王に申しあげた、「もし王がよしとされ、しもべがあなたの前に恵みを得ますならば、どうかわたしをユダにあるわたしの先祖の墳墓の町につかわして、それを再建させてください。六時に王妃もかたわらに座していたが、王はわたしに言われた、「あなたの旅の期間はどれほどですか。いつごろ帰ってきますか」。こうして王がわたしをつかわすことをよしとされたので、わたしは期間を定めて王に申しあげた。七わたしはまた王に申しあげた、「もし王がよしとされるならば、川向こうの州の知事たちに与える手紙をわたしに賜わり、わたしがユダに行きつくまで、彼らがわたしを通過させるようにしてください。八また王の山林を管理するアサフに与える手紙をも賜わり、神殿に属する城の門を建てるため、また町の石がき、およびわたしの住むべき家を建てるために用いる材木をわたしに与えるようにしてください。九わたしの神がよくわたしを助けられたので、王はわたしの願いを許された。

九そこでわたしは川向こうの州の知事たちの所へ行って、王の手紙を渡した。なお王は軍の長および騎兵をわたしと共ににつかわした。一〇ところがホロニびとサンバラテおよびアンモンびと奴隷トビヤはこれを聞き、イスラ

エルの子孫の福祉を求める人が来たといので、大いに感情を害した。

二わたしはエルサレムに着いて、そこに三日滞在した後、三夜中に起き出た。数人の者がわたしに伴ったが、わたしは、神がエルサレムのためになそうとして、わたしの心に入れたことを、だれにも告げ知らせず、またわたしが乗った獣のほかには、獣をつれて行かなかった。四わたしは夜中に出て谷の門を通り、龍の井戸および糞の門に行つて、エルサレムのくずれた城壁や、火に焼かれた門を調査し、五また泉の門および王の池に行つたが、わたしの乗っている獣の通るべき所もなかった。六わたしはまたその夜のうちに谷に沿つて上り、城壁を調査したうえ、身をめぐらして、谷の門を通つて帰った。七つかさたちは、わたしがどこへ行つたか、何をしたかを知らなかった。わたしはまたユダヤ人にも、祭司たちにも、尊い人たちにも、つかさたちにも、その他工事をする人々にもまだ知らせなかった。

八しかしわたしはついに彼らに言った、「あなたがたの見るのとおり、われわれは難局にある。エルサレムは荒廃し、その門は火に焼かれた。さあ、われわれは再び世のはずかしめをうけることのないように、エルサレムの城壁を築こう。九そして、わたしの神がよくわたしを助けられたことを彼らに告げ、また王がわたしに語られた言葉をも告げたので、彼らは「さあ、立ち上がって築

こう」と言い、奮い立って、この良きわざに着手しようとした。一九ところがホロニびとサンバラテ、アンモンびと奴隷トビヤおよびアラビヤびとガシムがこれを聞いて、われわれをあざけり、われわれを侮って言った、「あなたがたは何をするのか、王に反逆しようとするのか」。二〇わたしは彼らに答えて言った、「天の神がわれわれを恵まれるので、そのしもべであるわれわれは奮い立って築くのである。しかしあなたがたはエルサレムに何の分もなく、権利もなく、記念もない」。

第三章 かくて大祭司エリアシブは、その兄弟である祭司たちと共に立って羊の門を建て、これを聖別してそのとびらを設け、さらにこれを聖別して、ハンメアの望楼に及ぼし、またハナネルの望楼にまで及ぼした。二彼の次にはエリコの人々が建て、その次にはイムリの子ザツクルが建てた。

三魚の門はハツセナアの子らが建て、その梁を置き、そのとびらと横木と貫の木とを設けた。四その次にハツコヅの子ウリヤの子メレモテが修理し、その次にメシザベルの子ベレキヤの子メシユラムが修理し、その次にバアナの子ザドクが修理した。五その次にテコアびとらが修理したが、その貴人たちはその主の工事に服さなかつた。

六古い門はパセアの子ヨイアダおよびベソデヤの子メシユラムがこれを修理し、その梁を置き、そのとびらと

横木と貫の木とを設けた。七その次にギベオンびとメラテヤ、メロノテびとヤドン、および川向こうの州の知事の行政下にあるギベオンとミツパの人々が修理した。八その次にハルハヤの子ウジエルなどの金細工人が修理し、その次に製香者のひとりハナニヤが修理した。こうして彼らはエルサレムを城壁の広い所まで復旧した。九その次にエルサレムの半区域の知事ホルの子レバヤが修理し、一〇その次にハルマフの子エダヤが自分の家と向かい合っている所を修理し、その次にはハシャブニヤの子ハットシが修理した。二ハリムの子マルキヤおよびバハテ・モアブの子ハシユブも他の部分および炉の望楼を修理した。三その次にエルサレムの他の半区域の知事ハロヘシの子シャルムがその娘たちと共に修理した。

四谷の門はハヌンがザノアの民と共にこれを修理し、これを建て直して、そのとびらと横木と貫の木とを設け、また糞の門まで城壁一千キュビトを修理した。

五糞の門はベテ・ハケレムの区域の知事レカブの子マルキヤがこれを修理し、これを建て直して、そのとびらと横木と貫の木とを設けた。

六泉の門はミツパの区域の知事コロホゼの子シャルンがこれを修理し、これを建て直して、おおいを施し、そのとびらと横木と貫の木とを設けた。彼はまた王の園のほとりのシラの池に沿った石がきを修理して、ダビデの町から下る階段にまで及んだ。七その後にはベテズルの半



区域の知事アズブクの子ネヘミヤが修理して、ダビデの墓と向かい合った所に及び、掘池と勇士の宅にまで及んだ。二七その後にはバニの子レホムなどのレビびとが修理し、その次にケイラの半区域の知事ハシャビヤがその区域のために修理した。一八その後にはケイラの半区域の知事ヘナダデの子バワイなどその兄弟たちが修理し、一九その次にエシユアの子でミツバの知事であるエゼルが、城壁の曲りかどにある武器倉に上る所と向かい合った他の部分を修理し、二〇その後にはザバイの子バルクが、力をつくして城壁の曲りかどから大祭司エリアシブの家の門までの他の部分を修理し、二一その後にはハッコツの子ウリヤの子メレモテが、エリアシブの家の門からエリアシブの家の端までの他の部分を修理し、二二彼の後に低地の人々である祭司たちが修理し、二三その後にはベニヤミンおよびハシユブが、自分たちの家と向かい合っている所を修理し、その後にアナニヤの子マアセヤの子アザリヤが、自分の家の附近を修理し、二四その後にはヘナダデの子ビンヌイが、アザリヤの家から城壁の曲りかど、およびすみまでの他の部分を修理した。二五ウザイの子パラルは、城壁の曲りかどと向かい合っている所、および監視の庭に近い王の上の家から突き出ている望楼と向かい合っている所を修理した。その後にはパロシの子ペダヤ、二六およびオベルに住んでいる宮に仕えるしもべたちが、東の方の水の門と向かい合っている所、および突き出ている望楼と向かい

合っている所まで修理した。二七その後にはテコアびとが、突き出ている大望楼と向かい合っている他の部分を修理し、オベルの城壁にまで及んだ。

二八馬の門から上の方は祭司たちが、おのおの自分の家と向かい合っている所を修理した。二九その後にはインメルの子ザドクが、自分の家と向かい合っている所を修理し、その後にはシカニヤの子シマヤという東の門を守る者が修理し、三〇その後にはシレミヤの子ハナニヤおよびザラフの第六の子ハヌンが他の部分を修理し、その後にはベレキヤの子メシユラムが、自分のへやと向かい合っている所を修理した。三一その後には金細工人のひとりマルキヤという者が、召集の門と向かい合っている所を修理して、すみの二階のへやに至り、宮に仕えるしもべたちおよび商人の家にまで及んだ。三二またすみの二階のへやと羊の門の間は金細工人と商人たちがこれを修理した。

第四章 サンバラテはわれわれが城壁を築くのを聞いて怒り、大いに憤ってユダヤ人をあざけった。二彼はその兄弟たちおよびサマリヤの兵隊の前で語って言った、「この弱々しいユダヤ人は何をしているのか。自分で再興しようとするのか。犠牲をささげようとするのか。一日で事を終えようとするのか。塵塚の中の石はすでに焼けているのに、これを取りだして生かそうとするのか」。三またアンモンびとトビヤは、彼のかたわらにいて言った、「そうだ、彼らの築いている城壁は、きつね

一匹が上つてもくずれるであろう」と。四「われわれの神よ、聞いてください。われわれは侮られています。彼らのはずかしめを彼らのこうべに返し、彼らを捕囚の地でぶんどり物にしてください。五彼らのとがをおおわず、彼らの罪をみ前から消し去らないでください。彼らは築き建てる者の前であなただを怒らせたからです」。

六こうしてわれわれは城壁を築いたが、石がきはみな相連なつて、その高さの半ばにまで達した。民が心をこめて働いたからである。

七ところがサンバラテ、トビヤ、アラビヤびと、アンモンびと、アシドドびとらは、エルサレムの城壁の修理が進展し、その破れ目もふさがり始めた。聞いて大いに怒り、八皆共に相はかり、エルサレムを攻めて、その中に混乱を起そうとした。九そこでわれわれは神に祈り、また日夜見張りを置いて彼らに備えた。

一〇その時、ユダびとは言った、「荷を負う者の力は衰え、そのうえ、灰土がおびただしいので、われわれは城壁を築くことができない」。一一またわれわれの敵は言った、「彼らの知らないうちに、また見ないうちに、彼らの中にはいりこんで彼らを殺し、その工事をやめさせよう」。一二また彼らの近くに住んでいるユダヤ人たちはきて、十度もわれわれに言った、「彼らはその住んでいるすべての所からわれわれに攻め上るでしょう」と。一三そこでわたしは民につるぎ、やりおよび弓を持たせ、城壁の後の低

い所、すなわち空地にその家族にしたがつて立たせた。一四わたしは見めぐり、立つて尊い人々、つかさたち、およびその他の民らに言った、「あなたがたは彼らを恐れてはならない。大いなる恐るべき主を覚え、あなたがたの兄弟、むすこ、娘、妻および家のために戦いなさい」。

一五われわれの敵は自分たちの事が、われわれに悟られたことを聞き、また神が彼らの計りごとを破られたことを聞いたので、われわれはみな城壁に帰り、おのおのその工事を続けた。一六その日から後は、わたしのしもべの半数は工事に働き、半数はやり、盾、弓、よろいをもつて武装した。そしてつかさたちは城壁を築いているユダの全家の後に立った。一七荷を負い運ぶ者はおのの片手で工事をなし、片手に武器を執った。一八築き建てる者はおのおのその腰につるぎを帯びて築き建て、ラッパを吹く者はわたしのかたわらにいた。一九わたしは尊い人々、つかさたち、およびその他の民に言った、「工事は大きくかつ広がっているので、われわれは城壁の上で互に遠く離れている。二〇どこでもラッパの音を聞いたなら、そこにいるわれわれの所に集まってほしい。われわれの神はわれわれのために戦われます」。

二一このようにして、われわれは工事を進めたが、半数の者は夜明けから星の出る時まで、やりを執っていた。二二その時わたしはまた民に告げて、「おのおのそのしもべと共にエルサレムの内に宿り、夜はわれわれの護衛者と

なり、昼は工事をするように」と言った。三そして、わたしも、わたしの兄弟たちも、わたしのしもべたちも、わたしを護衛する人々も、われわれのうちひとりも、その衣を脱がず、おのおの手に武器を執っていた。

第五章 「さて、ここに民がその妻と共に、その

兄弟であるユダヤ人に向かつて大いに叫び訴えることがあった。二すなわち、ある人々は言った、「われわれはむすこ娘と共に大ぜいです。われわれは穀物を得て、食べて生きていかなければなりません。三またある人々は言った、「われわれは飢えのために、穀物を得ようと田畑も、ぶどう畑も、家も抵当に入れています。四ある人々は言った、「われわれは王の税金のために、われわれの田畑およびぶどう畑をもって金を借りました。五現にわれわれの肉はわれわれの兄弟の肉に等しく、われわれの子ども彼らの子供に等しいのに、見よ、われわれはむすこ娘を人の奴隷とするようにいられています。われわれの娘のうちには、すでに人の奴隷になった者もあります。六、われわれの田畑も、ぶどう畑も他人のものになっているので、われわれにはどうする力もありません」。

七わたしは彼らの叫びと、これらの言葉を聞いて大いに怒った。八わたしはみずから考えたすえ、尊い人々およびつかさたちを責めて言った、「あなたがたはめいめいその兄弟から利息をとっている。そしてわたしは彼らの事について大会を開き、九彼らに言った、「われわれ

は異邦人に売られたわれわれの兄弟ユダヤ人を、われわれの力にしたがってあがなった。しかるにあなたがたは自分の兄弟を売ろうとするのか。彼らはわれわれに売れるのか。一彼らは黙してひと言もいわなかった。九わたしはまた言った、「あなたがたのする事はよくない。あなた

がたは、われわれの敵である異邦人のそしりをやめさせるために、われわれの神を恐れつつ事をなすべきではないか。二わたしもわたしの兄弟たちも、わたしのしもべたちも同じく金と穀物とを貸しているが、われわれはこの利息をやめよう。三どうぞ、あなたがたは、きょうにも彼らの田畑、ぶどう畑、オリブ畑および家屋を彼らに返し、またあなたがたが彼らから取っていた金銭、穀物、ぶどう酒、油などの百分の一を返しなさい。四そして彼らは「われわれはそれを返します。彼らから何を要求しません。あなたの言うようにします」と言った。そこでわたしは祭司たちを呼び、彼らにこの言葉のおりに行うという誓いを立てさせた。五わたしはまたわたしのふところを打ち払って言った、「この約束を実行しない者を、どうぞ神がこのように打ち払って、その家およびその仕事を離れさせられるように。その人はこのように打ち払われてむなしくなるように」。会衆はみな「アメン」と言って、主をさんびした。そして民はこの約束のとおりに行った。

六またわたしは、ユダの地の総督に任せられた時から、



すなわちアルタシヤスタ王の第二十年から第三十二年まで、十二年の間、わたしもわたしの兄弟たちも、総督としての手当を受けなかった。二五 わたしより以前の総督らは民に重荷を負わせ、彼らから銀四十シケルのほかにパンとぶどう酒を取り、また彼らのしもべたちも民を圧迫した。しかしわたしは神を恐れるので、そのようなことはしなかった。二六 わたしはかえって、この城壁の工事に身をゆだね、どんな土地をも買ったことはない。わたしはしもべたちは皆そこに集まって工事をした。二七 またわたしの食卓にはユダヤ人と、つかさたち百五十人もあり、そのほかに、われわれの周囲の異邦人のうちからきた人もあった。二八 これがために一日に牛一頭、肥えた羊六頭を備え、また鶏をもわたしのために備え、十日ごとにたくさんぶどう酒を備えたが、わたしはこの民の労役が重かったので、総督としての手当を求めなかった。二九 わが神よ、わたしがこの民のためにしたすべての事を覚えて、わたしをお恵みください。

## 第六章 「サン巴拉テ、トビヤ、アラビヤびと

ガシムおよびその他のわれわれの敵は、わたしが城壁を築き終って、一つの破れも残らないと聞いた。(しかしその時にはまだ門のとびらをつけていなかったのである。)三そこでサン巴拉テとガシムはわたしに使者をつかわし、て言った、「さあ、われわれはオノの平野にある一つの村で会見しよう」と。彼らはわたしに危害を加えようと考

えていたのである。三それでわたしは彼らに使者をつかわして言わせた、「わたしは大いなる工事をしているから下って行くことはできない。どうしてこの工事をさしおいて、あなたがたの所へ下って行き、その間、工事をやめることができようか」。四 彼らは四度までこのようにわたしに人をつかわしたが、わたしは同じように彼らに答えた。五ところが、サン巴拉テは五度目にそのしもべを前のようにわたしにつかわした。その手には開封の手紙を携えていた。六その中に次のようにしるしてあった、「諸国民の間に言い伝えられ、またガシムも言っているが、あなたはユダヤ人と共に反乱を企て、これがために城壁を築いている。またその言うところによれば、あなたは彼らの王になろうとしている。七またあなたは預言者を立てて、あなたのことをエルサレムにのべ伝えさせ、『ユダに王がある』と言わせているが、そのことはこの言葉のとおり王に聞えるでしょう。それゆえ、今おいでなさい。われわれは共に相談しましょう」。八そこでわたしは彼に人をつかわして言わせた、「あなたの言うようなことはしていません。あなたはそれを自分の心から造り出したのです」と。九 彼らはみな「彼らの手が弱って工事をやめるようになれば、工事は成就しないだろう」と考えて、われわれをおどそうとしたのである。しかし神よ、どうぞいまわたしの手を強めてください。一〇 さてわたしはメヘタベルの子デラヤの子シマヤの家

に行つたところ、彼は閉じこもつていて言った、「われわれは神の宮すなわち神殿の中で会合し、神殿の戸を閉じておきましょう。彼らはあなたを殺そうとして来るからです。きつと夜のうちにあなたを殺そうとして来るでしょう。」  
 「わたしは言った、「わたしのような者がどうして逃げられよう。わたしのような者でだれが神殿にはいつて命を全うすることができよう。わたしははいらない。」  
 「わたしは悟つた。神が彼をつかわされたのではない。彼がわたしにむかつてこの預言を伝えたのは、トビヤとサンバラテが彼を買収したためである。  
 「彼が買収されたのはこの事のためである。すなわちわたしを恐れさせ、わたしにこのようにさせて、罪を犯させ、わたしに悪名をさせて侮辱するためであつた。  
 「わが神よ、トビヤ、サンバラテおよび女預言者ノアデヤならびにその他の預言者など、すべてわたしを恐れさせようとする者たちをおぼえて、彼らが行つたこれらのわざに報いてください。」

二五 こうして城壁は五十二日を経て、エルルの月の二十五日に完成した。  
 一六 われわれの敵が皆これを聞いた時、われわれの周囲の異邦人はみな恐れ、大いに面目を失つた。  
 彼らはこの工事が、われわれの神の助けによつて成就したことを悟つたからである。  
 一七 またそのころ、ユダの尊い人々は多くの手紙をトビヤに送つた。  
 トビヤの手紙もまた彼らにきた。  
 一八 トビヤはアラの子シカニヤの婿

であつたので、ユダのうちの多くの者が彼と誓いを立てていたからである。  
 トビヤの子ヨハナンもベレキヤの子メシユラムの娘を妻にめとつた。  
 一九 彼らはまたトビヤの善行をわたしの前に語り、またわたしの言葉を彼に伝えた。  
 トビヤはたびたび手紙を送つて、わたしを恐れさせようとした。

第七章 「城壁が築かれて、とびらを設け、さ

らに門衛、歌うたう者およびレビびとを任命したので、わたしは、わたしの兄弟ハナニと、城のつかさハナニヤに命じて、エルサレムを治めさせた。  
 彼は多くの者にまさつて忠信な、神を恐れる者であつたからである。  
 三 わたしは彼らに言った、「日の暑くなるまではエルサレムのものもろの門を開いてはならない。人々が立つて守つてゐる間に門を閉じさせ、貫の木を差せ。またエルサレムの住民の中から番兵を立てて、おのおのにその所を守らせ、またおのおのの家と向かい合う所を守らせよ。」  
 四 町は広くて大きかつたが、その内の民は少なく、家々はまだ建てられていなかつた。

五 時に神はわたしの心に、尊い人々、つかさおよび民を集めて、家系によつてその名簿をしらべようとの思いを起された。  
 わたしは最初に上つて来た人々の系図を発見し、その中にこのようにしるしてあるのを見いだした。  
 六 バビロンの王ネブカデネザルが捕え移した捕囚のうち、ゆるされてエルサレムおよびユダに上り、おのおの



自分の町に帰ったこの州の人々は次のとおりである。彼らはゼルバベル、エシユア、ネヘミヤ、アザリヤ、ラアミヤ、ナハマニ、モルデカイ、ビルシヤン、ミスベレテ、ビグワイ、ネホム、バアナと一緒に帰ってきた者たちである。

そのイスラエルの民の人数は次のとおりである。ハバロシの子孫は二千百七十二人。九シパテヤの子孫は三百七十二人。アアラの子孫は六百五十二人。ニバハテ・モアブの子孫すなわちエシユアとヨアブの子孫は二千八百十八人。ミエラムの子孫は一千二百五十四人。ミザツトの子孫は八百四十五人。四ザツカイの子孫は七百六十人。五ビンヌイの子孫は六百四十八人。六ペバイの子孫は六百二十八人。七アズガデの子孫は二千三百三十二人。八アドニカムの子孫は六百六十七人。九ビグワイの子孫は二千六十七人。一〇アデンの子孫は六百五十五人。ミヒゼキヤの家のアテルの子孫は九十八人。ミハシユムの子孫は三百二十八人。ミベザイの子孫は三百二十四人。二ハハリフの子孫は百十二人。二五ギベオンの子孫は九十五人。二六ベツレヘムおよびネトパの人々は百八十八人。二七アナトテの人々は百二十八人。二八ベテ・アズマウテの人々は四十二人。二九キリアテ・ヤリム、ケピラおよびベエロテの人々は七百四十三人。三〇ラマおよびゲバの人々は六百二十一人。三ミクマシの人々は百二十二人。三二ベテルおよびアイの人々は百二十三人。三三ほかのネボ

の人々は五十二人。三四ほかのエラムの子孫は一千二百五十四人。三五ハリムの子孫は三百二十人。三六エリコの人々は三百四十五人。三七ロド、ハデデおよびオノの人々は七百二十一人。三八セナアの子孫は三千九百三十人。三九祭司では、エシユアの家のエダヤの子孫が九百七十人。四〇インメルの子孫が一千五十二人。四一バシユルの子孫が一千二百四十七人。四二ハリムの子孫が一千十七人。

四三レビびとでは、エシユアの子孫すなわちホデワの子孫のうちのカデミエルの子孫が七十四人。

四四歌うたう者では、アサフの子孫が百四十八人。

四五門衛では、シャルムの子孫、アテルの子孫、タルモンの子孫、アックブの子孫、ハテタの子孫およびシヨバイの子孫合わせて百三十八人。

四六宮に仕えるしもべでは、ジハの子孫、ハスパの子孫、タバオテの子孫、四七ケロスの子孫、シアの子孫、バドンの子孫、四八レバナの子孫、ハガバの子孫、サルマイの子孫、四九ハナンの子孫、ギデルの子孫、ガハルの子孫、五〇レアヤの子孫、レデンの子孫、ネコダの子孫、五一ガザムの子孫、ウザの子孫、バセアの子孫、五二ベサイの子孫、メウニムの子孫、ネフセシムの子孫、五三バクブクの子孫、ハクバの子孫、ハルホルの子孫、五四バヅリテの子孫、メヒダの子孫、ハルシヤの子孫、五五バルコスの子孫、シセラの子孫、テマの子孫、五六ネヂアの子孫およびハテバの

子孫。

五七 ソロモンの子孫、ソペレテの子孫、ベリダの子孫、五八 ヤアラの子孫、ダルコンの子孫、ギデルの子孫、五九 シパテヤの子孫、ハッテルの子孫、ボケレテ・ハッゼバイムの子孫、アモンの子孫。

六〇 宮に仕えるしもべたちとソロモンの子孫では、ソタ者たちの子孫とは合わせて三百九十二人。

六一 テルメラ、テルハレサ、ケルブ、アドンおよびインメルから上つて来た者があつたが、その氏族と、血統とを示して、イスラエルの者であることを明らかにすることができなかった。その人々は次のとおりである。六二 すなわちデラヤの子孫、トビヤの子孫、ネコダの子孫であつて、合わせて六百四十二人。六三 また祭司のうちにホバヤの子孫、ハツコツの子孫、バルジライの子孫がある。バルジライはギレアデびとバルジライの娘たちのうちから妻を娶つたので、その名で呼ばれた。六四 これらの者はこの系図に載つた者のうちに、自分の籍をたずねたが、なかつたので、汚れた者として祭司の職から除かれた。六五 総督は彼らに告げて、ウリムとトンミムを帯びる祭司の起るまでは、いと聖なる物を食べてはならぬと言つた。

六六 会衆は合わせて四万二千三百六十人であつた。六七 このほかに男女の奴隷が七千三百三十七人、歌うたう者が

男女合わせて二百四十五人あつた。六八 その馬は七百三十六頭、その騾馬は二百四十五頭、六九 そのらくだは四百三十五頭、そのろばは六千七百二十頭であつた。

七〇 氏族の長のうち工事のためにささげ物をした人々があつた。総督は金一千ダリク、鉢五十、祭司の衣服五百三十かさねを倉に納めた。七一 また氏族の長のうちのある人々は金二万ダリク、銀二千二百ミナを工事のために倉に納めた。七二 その他の民の納めたものは金二万ダリク、銀二千ミナ、祭司の衣服六十かさねであつた。

七三 こうして祭司、レビびと、門衛、歌うたう者、民のうちのある人々、宮に仕えるしもべたち、およびイスラエルびとは皆その町々に住んだ。

イスラエルの民々々はその町々に住んで七月になつた。

## 第八章

一 その時民は皆ひとりのようになつて水の門の前の広場に集まり、主がイスラエルに与えられたモーセの律法の書を持つて来るように、学者エズラに求めた。二 祭司エズラは七月の一日に律法を携えて来て、男女の会衆およびすべて聞いて悟ることのできる人々の前にあらわれ、三水の門の前にある広場で、あけぼのから正午まで、男女および悟ることのできる人々の前でこれを讀んだ。民はみな律法の書に耳を傾けた。四 学者エズラはこの事のために、かねて設けた木の台の上に立つたが、彼のかたわらには右の方にマッタテヤ、シマ、アナヤ、ウリヤ、ヒルキヤおよびマアセヤが立ち、左の方

にはペダヤ、ミサエル、マルキヤ、ハシユム、ハシバダナ、ゼカリヤおよびメシユラムが立つた。エズラはすべての民の前にその書を開いた。彼はすべての民よりも高い所にいたからである。彼が書を開くと、すべての民は起立した。エズラは大いなる神、主をほめ、民は皆その手をあげて、「アアメン、アアメン」と言つて答へ、こうべをたれ、地にひれ伏して主を拝した。エシユア、パニ、セレビヤ、ヤミン、アックブ、シャベタイ、ホデヤ、マアセヤ、ケリタ、アザリヤ、ヨザバデ、ハナン、ペラヤおよびレビびとたちは民に律法を悟らせた。民はその所に立つていた。彼らはその書、すなわち神の律法をめぐりように読み、その意味を解き明かしてその読むところを悟らせた。

総督であるネヘミヤと、祭司であり、学者であるエズラと、民を教えるレビびとたちはすべての民に向かつて「この日はあなたがたの神、主の聖なる日です。嘆いたり、泣いたりしてはならない」と言つた。すべての民が律法の言葉を聞いて泣いたからである。そして彼らに言つた、「あなたがたは去つて、肥えたものを食べ、甘いものを飲みなさい。その備えのないものには分けてやりなさい。この日はわれわれの主の聖なる日です。憂えてはならない。主を喜ぶことはあなたがたの力です。ニレビびともまたすべての民を静めて、「泣くことをやめなさい。この日は聖なる日です。憂えてはならない」と言つ

た。三すべての民は去つて食ひ飲みし、また分け与えて、大いに喜んだ。これは彼らが読み聞かされた言葉を悟つたからである。

三 次の日、すべての民の氏族の長たち、祭司、レビびとらは律法の言葉を学ぶために学者エズラのもとに集まつてきて、「律法のうちに主がモーセに命じられたこと、すなわちイスラエルの人々は七月の祭の間、仮庵の中に住むべきことがしるされているのを見いだした。五またすべての町々およびエルサレムにのべ伝えて、「あなたがたは山に出て行つて、オリブと野生のオリブ、ミルトス、なつめやし、および茂つた木の枝を取つてきて、しるされてあるとおり、仮庵を造れ」と言つてあるのを見いだした。六それで民は出て行つて、それを持つて帰り、おのおのその家の屋根の上、その庭、神の宮の庭、水の門の広場、エフライムの門の広場などに仮庵を造つた。七捕囚から帰つて来た会衆は皆仮庵を造つて、仮庵に住んだ。八ヨシユアの日からこの日まで、イスラエルの人々はこのように行つたことがなかった。それでその喜びは非常に大きかった。八エズラは初めの日から終りの日まで、毎日神の律法の書を読んだ。人々は七日の間、祭を行い、八日目になつて、おきてにしたがつて聖会を開いた。

第九章 「その月の二十四日にイスラエルの人は集まつて断食し、荒布をまとひ、土をかぶつた。



ニそしてイスラエルの子孫は、すべての異邦人を離れ、立って自分の罪と先祖の不義とをさんげした。<sup>三</sup>彼らはその所に立って、その日の四分の一をもってその神、主の律法の書を読み、他の四分の一をもってさんげをなし、その神、主を拝した。<sup>四</sup>その時エシユア、パニ、カデミエル、シパニヤ、ブニ、セレビヤ、パニ、ケナニらはレビびとの台の上に立ち、大声をあげて、その神、主に呼ばわった。<sup>五</sup>それからまたエシユア、カデミエル、パニ、ハシャブニヤ、セレビヤ、ホデヤ、セバニヤ、ベタヒヤなどのレビびとは言った、「立ちあがって永遠から永遠にいますあなたがたの神、主をほめなさい。あなたがたの尊い名はほむべきかな。これはすべての祝福とさんびを越えるものです」。

<sup>六</sup>またエズラは言った、「あなたは、ただあなたのみ主でいられます。あなたは天と諸天の天と、その万象、地とその上のすべてのもの、海とその中のすべてのものを造り、これをことごとく保たれます。天の万軍はあなたを拝します。<sup>七</sup>あなたは主、神でいらせられます。あなたは昔アブラムを選んでカルデヤのウルから導き出し、彼にアブラハムという名を与え、<sup>八</sup>彼の心があなたの前に忠信なのを見られて、彼と契約を結び、その子孫にカナンびと、ヘテびと、アモリびと、ペリジびと、エブスびとおよびギルガシびとの地を与えと言われたが、ついにあなたはその約束を成就されました。あなた

は正しくいらせられるからです。

<sup>九</sup>あなたはわれわれの先祖がエジプトで苦難を受けるのを顧みられ、また紅海のほとりで呼ばわり叫ぶのを聞きいられ、<sup>一〇</sup>しるしと不思議とをあらわしてペロと、そのすべての家来と、その国のすべての民を攻められました。彼らがわれわれの先祖に対して、ごうまんにふるまったことを知られたからです。そしてあなたが名をあげられたこと今日のようです。<sup>一一</sup>あなたはまた彼らの前で海を分け、彼らに、かわいた地を踏んで海の中を通らせ、彼らを追う者を、石を大水に投げ入れるように淵に投げ入れ、<sup>一二</sup>昼は雲の柱をもって彼らを導き、夜は火の柱をもってその行くべき道を照されました。<sup>一三</sup>あなたはまたシナイ山の上に下り、天から彼らと語り、正しいおきてと、まことの律法および良きさだめと戒めとを授け、<sup>一四</sup>あなたの聖なる安息日を彼らに示し、あなたのしもべモーセによって戒めと、さだめと、律法とを彼らに命じ、<sup>一五</sup>天から食物を与えてその飢えをとどめ、岩から水を出してそのかわきを潤し、また、彼らに与えたと誓われたその国にはいつて、これを獲るように彼らに命じられました。

<sup>一六</sup>しかし彼ら、すなわちわれわれの先祖はごうまんにふるまい、かたくなで、あなたの戒めに従わず、<sup>一七</sup>従うことを拒み、あなたが彼らの中で行われた奇跡を心にとめず、かえってかたくなになり、みずからひとりのかし

らを立てて、エジプトの奴隷の生活に帰ろうとしました。しかしあなたは罪をゆるす神、恵みあり、あわれみあり、怒ることおそく、いつくしみ豊かにましまして、彼らを捨てられませんでした。一八また彼らがみずから一つの鑄物の子牛を造って、『これはあなたがたをエジプトから導き上ったあなたがたの神である』と言って、大いに汚し事を行った時にも、一九あなたは大きいなるあわれみをもって彼らを荒野に見捨てられず、昼は雲の柱を彼らの上から離さないで道々彼らを導き、夜は火の柱をもって彼らの行くべき道を照されました。二〇またあなたは良きみたまを賜わって彼らを教え、あなたのマナを常に彼らの口に与え、また水を彼らに与えて、かわきをとどめ、三四年の間彼らを荒野で養われたので、彼らはなんの欠けるところもなく、その衣服も古びず、その足もはれませんでした。二三そしてあなたは彼らに諸国、諸民を与えて、これをすべて分かち取らせられました。彼らはヘシポンの王シホンの領地、およびバシヤンの王オグの領地を獲しました。二四また彼らの子孫を増して空の星のようにし、彼らの先祖たちに、はいつて獲よと言われた地に彼らを導き入れられたので、二五その子孫は、はいつてこの地を獲しました。あなたはまた、この地に住むカナンびとを彼らの前に征服し、その王たちおよびその地の民を彼らの手に渡して、意のままに扱わせられました。二六それで彼らは堅固な町々および肥えた地を取り、もろもろの良い

物の満ちた家、掘池、ぶどう畑、オリブ畑および多くの果樹を獲、食べて飽き、肥え太り、あなたの大きいなる恵みによって楽しみました。

二七それにもかかわらず彼らは不従順で、あなたにそむき、あなたの律法を後に投げ捨て、彼らを戒めて、あなたに立ち返らせようとした預言者たちを殺し、大いに汚し事を行いました。二八そこであなたは彼らを敵の手に渡して苦しめられました。二九あなたがその苦難の時にあなたに呼ばわったので、あなたは天からこれを聞かれ、大いなるあわれみをもって彼らに救う者と与え、敵の手から救わせられました。三〇ところが彼らは安息を得るやいなや、またあなたの前に悪事を行ったので、あなたは彼らを敵の手に捨て置いて、これに治めさせられました。三十一あなたがまた立ち返ってあなたに呼ばわったので、あなたは天からこれを聞き、あわれみをもってしばしば彼らを救い出し、三二彼らを戒めて、あなたの律法に引きもどそうとされました。三三けれども彼らはどうまんにもふるまい、あなたの戒めに従わず、人がこれを行うならば、これによつて生きるというあなたのおきてを破つて罪を犯し、肩をそびやかし、かたくなになって、聞き従おうとはしませんでした。三四それでもあなたは年久しく彼らを忍び、あなたの預言者たちにより、あなたのみたまをもって彼らを戒められましたが、彼らは耳を傾けなかつたので、彼らを国々の民の手に渡されました。三五しかしあなたは

大いなるあわれみによつて彼らを絶やさず、また彼らを捨てられませんでした。あなたは恵みあり、あわれみある神でいらせられるからです。

三三 それゆえ、われわれの神、契約を保ち、いつくしみを施される大いにして力強く、恐るべき神よ、アッスリヤの王たちの時から今日まで、われわれとわれわれの王たち、つかさたち、祭司たち、預言者たち、先祖たち、およびあなたのすべての民に臨んだもろもろの苦難を小さい事と見ないでください。三三 われわれに臨んだすべての事について、あなたは正しいのです。あなたは誠実をもつて行われたのに、われわれは悪を行つたのです。三三 われわれの王たち、つかさたち、祭司たち、先祖たちはあなたの律法を行わず、あなたが与えになつた命令と戒めとに聞き従いませんでした。三五 すなわち彼らはおのれの国におり、あなたが下さつた大きな恵みのうちにおり、またあなたが与えになつた広い肥えた地におりながら、あなたに仕えず、また自分の悪いわざをやめることをしませんでした。三六 われわれは今日奴隷です。あなたがわれわれの先祖に与えて、その実とその良き物とを食せさせようとした地で、われわれは奴隷となつてゐるのです。三七 そしてこの地はわれわれの罪のゆえに、あなたがわれわれの上に立てられた王たちのために多くの産物を出しています。かつ彼らはわれわれの身をも、われわれの家畜をも意のままに左右することができ

で、われわれは大いなる苦難のうちにあるのです。

三八 このもろもろの事のためにわれわれは堅い契約を結んで、これを記録し、われわれのつかさたち、レビびとたち祭司たちはこれに印を押した。

第一〇章 一印を押した者はハカリヤの子である総督ネヘミヤ、およびゼデキヤ、ニセラヤ、アザリヤ、エレミヤ、三バシユル、アマリヤ、マルキヤ、四ハットシ、シバニヤ、マルク、五ハリム、メレモテ、オバデヤ、六ダニエル、ギンネトシ、バルク、セメシユラム、アビヤ、ミヤミン、ハマアジヤ、ビルガイ、シマヤで、これらは祭司である。

九レビびとではアザニヤの子エシユア、ヘナダデの子らのうちのピンヌイ、カデミエル、一〇およびその兄弟シバニヤ、ホデヤ、ケリタ、ペラヤ、ハナン、一一ミカ、レホブ、ハシャビヤ、三ザツクル、セレビヤ、シバニヤ、三ホデヤ、パニ、ベニヌである。一四民のかしらではパロシ、バハテ・モアブ、エラム、ザツト、パニ、一五ブンニ、アズガデ、ベバイ、一六アドニヤ、ビグワイ、アデン、一七アテル、ヒゼキヤ、アズル、一八ホデヤ、ハシユム、ベザイ、一九ハリフ、アナトテ、ノバイ、二〇マグピアシ、メシユラム、ヘジル、二一メシザベル、ザドク、ヤドア、三ペラテヤ、ハナン、アナニヤ、三三ホセア、ハナニヤ、ハシユブ、二四ハロヘシ、ビルハ、シヨベク、二五レホム、ハシャブナ、マアセヤ、二六アビヤ、ハナン、アナン、



ニマルク、ハリム、バアナである。

二八その他の民、祭司、レビびと、門を守る者、歌うたう者、宮に仕えるしもべ、ならびにすべて国々の民と離れて神の律法に従った者およびその妻、むすこ、娘などすべて知識と悟りのある者は、二九その兄弟である尊い人へ人につき従ひ、神のしもべモーセによつて授けられた神の律法に歩み、われわれの主、主のすべての戒めと、おきてと、定めとを守り行ふために、のろいと誓ひとに加わった。三〇われわれはこの地の民らにわれわれの娘を与えず、われわれのむすこに彼らの娘をめとらない。三二またこの地の民らがたとい品物または穀物を安息日に携えて来て売ろうとしても、われわれは安息日または聖日にはそれを買わない。また七年ごとに耕作をやめ、すべての負債をゆるす。

三一われわれはまたみずから規定を設けて、われわれの神の宮の用のために年々シケルの三分の一を出し、三二供えのパン、常素祭、常燔祭のため、安息日、新月および定め祭の供え物のため、聖なる物のため、イスラエルのあがないをなす罪祭、およびわれわれの神の宮のもろもろのわざのために用いることにした。三三またわれわれ祭司、レビびとおよび民はくじを引いて、律法にしろされてあるようにわれわれの神、主の祭壇の上にたくべきたぎの供え物を、年々定められた時に氏族にしたがつて、われわれの神の宮に納める者を定めた。三五またわれ

われの土地の初なり、および各種の木の実の初なりを、年々主の宮に携えてくることを誓ひ、三六また律法にしろしてあるように、われわれの子どもおよび家畜のういご、およびわれわれの牛や羊のういごを、われわれの神の宮に携えてきて、われわれの神の宮に仕える祭司に渡し、三七われわれの麦粉の初物、われわれの供え物、各種の木の実、ぶどう酒および油を祭司のもとに携えて行つて、われわれの神の宮のへやに納め、またわれわれの土地の産物の十分の一をレビびとに与えることにした。レビびとはわれわれのすべての農作をなす町において、その十分の一を受くべき者だからである。三八レビびとが十分の一を受ける時には、アロンの子孫である祭司が、そのレビびとと共にいなければならない。そしてまたレビびとはその十分の一の十分の一を、われわれの神の宮に携え上つて、へやまたは倉に納めなければならない。三九すなわちイスラエルの人々およびレビの子孫は穀物、ぶどう酒、および油の供え物を携えて行つて、聖所の器物および勤めをする祭司、門衛、歌うたう者たちのいるへやにこれを納めなければならない。こうしてわれわれは、われわれの神の宮をなおざりにしない。

第一章 民のつかさたちはエルサレムに住み、その他の民はくじを引いて、十人のうちからひとりずつを、聖都エルサレムに来て住ませ、九人を他の町々に住ませた。二またすべてみずから進みでてエルサレムに住

むことを申し出た人々は、民はこれを祝福した。

三六 さてエルサレムに住んだこの州の長たちは次のとおりである。ただしユダの町々ではおのおのその町々にある自分の所有地に住んだ。すなわちイスラエルびと、祭司、レビびと、宮に仕えるしもべ、およびソロモンのしもべであつた者たちの子孫である。四 そしてエルサレムにはユダの子孫およびベニヤミンの子孫のうちのある者たちが住んだ。すなわちユダの子孫ではウジヤの子アタヤで、ウジヤはゼカリヤの子、ゼカリヤはアマリヤの子、アマリヤはシバテヤの子、シバテヤはマハラレルの子、マハラレルはベレツの子孫である。五 またバルクの子マアセヤで、バルクはコロホゼの子、コロホゼはハザヤの子、ハザヤはアダヤの子、アダヤはヨヤリブの子、ヨヤリブはゼカリヤの子、ゼカリヤはシロニびとの子である。六 ベレツの子孫でエルサレムに住んだ者は合わせて四百六十八人で、みな勇敢な人々である。

セベニヤミンの子孫では次のとおりである。すなわちメシユラムの子サルで、メシユラムはヨエデの子、ヨエデはベダヤの子、ベダヤはコラヤの子、コラヤはマアセヤの子、マアセヤはイテエルの子、イテエルはエサヤの子である。八 その次はガバイおよびサライなどで合わせて九百二十八人。九 ジクリの子ヨエルが彼らの監督である。ハッセヌアの子ユダがその副官として町を治めた。一〇 祭司ではヨヤリブの子エダヤ、ヤキン、二 および神

の宮のつかさセラヤで、セラヤはヒルキヤの子、ヒルキヤはメシユラムの子、メシユラムはザドクの子、ザドクはメラヨテの子、メラヨテはアヒトブの子である。三 宮の務をするその兄弟は八百二十二人あり、また、エロハムの子アダヤがある。エロハムはペラリヤの子、ペラリヤはアムジの子、アムジはゼカリヤの子、ゼカリヤはパシホルの子、パシホルはマルキヤの子である。三 アダヤの兄弟で、氏族の長たる者は二百四十二人あり、またアザリエルの子アマシサイがある。アザリエルはアハザイの子、アハザイはメシレモテの子、メシレモテはインメルの子である。四 その兄弟である勇士は百二十八人あり、その監督はハツゲドリムの子ザブデエルである。

一五 レビびとではハシユブの子シマヤで、ハシユブはアズリカムの子、アズリカムはハシャビヤの子、ハシャビヤはブンニの子である。一六 またシャベタイおよびヨザバデがある。これらはレビびとのかしらであつて、神の宮の外のわざをつかさどつた。一七 またミカの子マッタニヤがある。ミカはザブデの子、ザブデはアサフの子である。一八 マッタニヤは祈の時に感謝の言葉を唱え始める者である。その兄弟のうちのバクブキヤは彼に次ぐ者であつた。またシャンマの子アブダがある。シャンマはガラルの子、ガラルはエドトンの子である。一九 聖都におけるレビびとは合わせて二百八十四人であつた。二〇 門衛では門を守るアックブ、タルモンおよびその兄

弟たち合あわせて百七十二人である。二〇その他のイスラエルびと、祭司、レビびとたちは皆ユダのすべての町々にあつて、おのおの自分の嗣業にとどまつた。二一ただし宮に仕えるしもべたちはオベルに住み、デハおよびギシバが宮に仕えるしもべたちを監督していた。

三二エルサレムにおけるレビびとの監督はウジである。ウジはパニの子、パニはハシャビヤの子、ハシャビヤはマツタニヤの子、マツタニヤはミカの子である。ミカは歌うたう者なるアサフの子孫である。ウジは神の宮のわざを監督した。三三彼らについては王からの命令があつて、歌うたう者に日々の定まつた分を与えさせた。三四またユダの子ゼラの子孫であるメシザベルの子ベタヒヤは王の手に属して民に関するすべての事を取り扱つた。

三五また村々とその田畑については、ユダの子孫の者はキリアテ・アルバとその村々、デボンとその村々、エカブジェルとその村々に住み、二六エシユア、モラダおよびベテペレテに住み、二七ハザル・シユアルおよびベエルシバとその村々に住み、二八チクラグおよびメコナとその村に住み、二九エシリンモン、ザレア、ヤルムテに住み、三〇ザノア、アドラムおよびそれらの村々、ラキシとその田野、アゼカとその村々に住んだ。こうして彼らはベエルシバからヒンノムの谷にまで宿営した。三二ベニヤミンの子孫はまたゲバからミクマシ、アヤおよびベテルとその村々に住み、三三アナトテ、ノブ、アナニヤ、三三ハゾル、

ラマ、ギッタタイム、三四ハデデ、ゼボイム、ネブラテ、三五ロド、オノ、工人の谷に住んだ。三六レビびとの組のユダにあるもののうちベニヤミンに合したのもあつた。

第一章「シヤルテルの子ゼルバベルおよびエシユアと一緒に上つてきた祭司とレビびとは次のとおりである。すなわちセラヤ、エレミヤ、エズラ、ニアマリヤ、マルク、ハットシ、ミシカニヤ、レホム、メレモテ、四イド、ギンネットイ、アビヤ、五ミヤミン、マアデヤ、ピルガ、六シマヤ、ヨヤリブ、エダヤ、七サライ、アモク、ヒルキヤ、エダヤで、これらの者はエシユアの時代に祭司およびその兄弟らのかしらであつた。

ハレビびとではエシユア、ピンヌイ、カデミエル、セレビヤ、ユダ、マツタニヤで、マツタニヤはその兄弟らと共に感謝のことをつかさどつた。九また彼らの兄弟であるバクブキヤおよびウンノは彼らの向かいに立つて勤めをした。一〇エシユアの子はヨアキム、ヨアキムの子はエリアシブ、エリアシブの子はヨイアダ、二ヨイアダの子はヨナタン、ヨナタンの子はやドアである。

三ヨアキムの時代に祭司で氏族の長であつた者はセラヤの氏族ではメラヤ、エレミヤの氏族ではハナニヤ、四エズラの氏族ではメシユラム、アマリヤの氏族ではヨハナン、五マルキの氏族ではヨナタン、シバニヤの氏族ではヨセフ、六ハリムの氏族ではアデナ、メラヨテの氏族ではヘルカイ、七イドの氏族ではゼカリヤ、ギンネット



シンの氏族ではメシユラム、一七アビヤの氏族ではジクリ、ミニヤミンの氏族、モアデヤの氏族ではビルタイ、一八ビルガの氏族ではシャンマ、シマヤの氏族ではヨナタン、一九ヨヤリブの氏族ではマツテナイ、エダヤの氏族ではウジ、二〇サライの氏族ではカライ、アモクの氏族ではエベル、二ヒルキヤの氏族ではハシャビヤ、エダヤの氏族ではネタンエルである。

三レビびとについては、エリアシブ、ヨイアダ、ヨハナンおよびヤドアの時代に、その氏族の長たちが登録された。また祭司たちもベルシャ王ダリヨスの治世まで登録された。三レビの子孫で氏族の長たる者は、エリアシブの子ヨハナンの世まで歴代志の書にしるされてゐる。二四レビびとのかしらはハシャビヤ、セレビヤおよびカデミエルの子エシユアであつて、その兄弟たち相向かい合ひ、組と組と対応して神の人ダビデの命令に従ひ、さんびと感謝をささげた。二五マツタニヤ、バクブキヤ、オバデヤ、メシユラム、タルモンおよびアツクブは門を守る者で門の内の倉を監督した。二六これらはヨザダクの子エシユアの子ヨアキムの時代、また総督ネヘミヤおよび學者である祭司エズラの時代にいた人々である。

二七さてエルサレムの城壁の落成式に當つて、レビびとを、そのすべての所から招いてエルサレムにこさせ、感謝と、歌と、シンバルと、立琴と、琴とをもって喜んで落成式を行おうとした。二八そこで、歌うたう人々はエル

サレムの周囲の地方、ネトパびとの村々から集まつてきた。二九またベテギルガルおよびゲバとアズマウテの地方からも集まつてきた。この歌うたう者たちはエルサレムの周囲に自分の村々を建てていたからである。三〇そして祭司とレビびとたちは身を清め、また民およびもろもろの門と城壁とを清めた。

三そこでわたしはユダのつかさたちを城壁の上にのぼらせ、また感謝する者の二つの大きな組を作つて、行進させた。その一つは城壁の上を右に糞の門をさして進んだ。三二そのあとに従つて進んだ者はホシヤヤ、およびユダのつかさたちの半ば、三三ならびにアザリヤ、エズラ、メシユラム、三四エダ、ベニヤミン、シマヤ、エレミヤであつた。三五また数人の祭司がラツパをもつて従つた。すなわちヨナタンの子ゼカリヤ。ヨナタンはシマヤの子、シマヤはマツタニヤの子、マツタニヤはミカヤの子、ミカヤはザツクルの子、ザツクルはアサフの子である。三六またゼカリヤの兄弟たちシマヤ、アザリエル、ミラライ、ギラライ、マアイ、ネタンエル、ユダ、ハナニなどであつて、神の人ダビデの樂器を持つて従つた。そして學者エズラは彼らの先に進んだ。三七彼らは泉の門を経て、まっすぐに進み、城壁の上り口で、ダビデの町の階段から上り、ダビデの家の上を過ぎて東の方、水の門に至つた。

三八他の一組の感謝する者は左に進んだ。わたしは民の

半ばと共に彼らのあとに従った。そして城壁の上を行き、炉の望楼の上を過ぎて、城壁の広い所に至り、三九エフライムの門の上を通り、古い門を過ぎ、魚の門およびハナネルの望楼とハンメアの望楼を過ぎて、羊の門に至り、近衛の門に立ち止まった。四〇こうして二組の感謝する者は神の宮にはいつて立った。わたしもそこに立ち、つかさたちの半ばもわたしと共に立った。四一また祭司エリアキム、マアセヤ、ミニヤミン、ミカヤ、エリオエナイ、ゼカリヤ、ハナニヤらはラツバを持ち、四二マアセヤ、シマヤ、エレアザル、ウジ、ヨハナン、マルキヤ、エラムおよびエゼルも共にいた。そして歌うたう者たちは声高く歌った。エズラヒヤはその監督であつた。四三こうして彼らはその日、大いなる犠牲をささげて喜んだ。神が彼らを大いに喜び樂しませられたからである。女子供までも喜んだ。それでエルサレムの喜びの声は遠くまで聞えた。

四四その日、倉のもろもろのへやをつかさどる人々を選び、ささげ物、初物、十分の一など律法の定めるところの祭司およびレビびとの分を町々の田畑にしたがつて取り集めて、へやに入れることをつかさどらせた。これは祭司およびレビびとの仕えるのを、ユダびとが喜んだからである。四五彼らはダビデおよびその子ソロモンの命令に従つて、神の勤めおよび清め事の勤めをした。歌うたう者および門を守る者もそのように行つた。四六昔ダビデ

およびアサフの日には、歌うたう者のかしらがりひとりいて、神にさんびと感謝をささげる事があつた。四七またゼルバベルの日およびネヘミヤの日には、イスラエルびとはみな歌うたう者と門を守る者に日々の分を与え、またレビびとに物を聖別して与え、レビびとはまたこれを聖別してアロンの子孫に与えた。

第一三章 その日モーセの書を読んで民に聞かせたが、その中にアンモンびと、およびモアブびとは、いつまでも神の会に、はいつてはならないとするされてゐるのを見いだした。二これは彼らがかつて、パンと水をもつてイスラエルの人々を迎えず、かえつてこれをのろわせるためにバラムを雇つたからである。しかしわれわれの神はそののろいを変えて祝福とされた。三人々はこの律法を聞いた時、混血の民をことごとくイスラエルから分け離した。

四これより先、われわれの神の宮のへやをつかさどつていた祭司エリアシブは、トビヤと縁組したので、五トビヤのために大きなへやを備えた。そのへやはもと、素祭の物、乳香、器物および規定によつてレビびと、歌うたう者および門を守る者たちに与える穀物、ぶどう酒、油の十分の一、ならびに祭司のためのささげ物を置いた所である。六その当時、わたしはエルサレムにいなかった。わたしはバビロンの王アルタスタの三十二年に王の所へ行つたが、しばらくたつて王にいとまを請い、

エルサレムに来て、エリアシブがトビヤのためにした悪事、すなわち彼のために神の宮の庭に一つのへやを備えたことを発見した。ハわたしは非常に怒り、トビヤの家の器物をことごとくそのへやから投げだし、命じて、すべてのへやを清めさせ、そして神の宮の器物および素祭、乳香などを再びそこに携え入れた。

「わたしはまたレビびとがその受くべき分を与えられていなかったことを知った。これがためにその務をなすレビびとおよび歌うたう者たちは、おのおの自分の畑に逃げ帰った。二それでわたしはつかさたちを責めて言った、「なぜ神の宮を捨てさせたのか」。そしてレビびとを招き集めて、その持ち場に復帰させた。三そこでユダの人々は皆、穀物、ぶどう酒、油の十分の一を倉に携えてきた。四わたしは祭司シレミヤ、学者ザドクおよびレビびとベダヤを倉のつかさとし、またマッタニヤの子ザツクルの子ハナンをその助手として倉をつかさどらせた。彼らは忠実な者と思われたからである。彼らの任務は兄弟たちに分配する事であった。五わが神よ、この事のためにわたしを覚えてください。わが神の宮とその勤めのためにわたしが行った良きわざをぬぐい去らないでください。」

一五そのころわたしはユダのうちで安息日に酒ぶねを踏む者、麦束を持ってきて、ろばに負わす者、またぶどう酒、ぶどう、いちじくおよびさまざまな荷を安息日にエ

ルサレムに運び入れる者を見たので、わたしは彼らが食物を売っていたその日に彼らを戒めた。一六そこに住んでいたツロの人々もまた魚およびさまざまな品物を持ってきて、安息日にユダの人々に売り、エルサレムで商売した。一七そこでわたしはユダの尊い人々を責めて言った、「あなたがたはなぜこの悪事を行って、安息日を汚すか。一八あなたがたの先祖も、このように行つたので、われわれの神はこのすべての災を、われわれとこの町に下されたではないか。ところがあなたがたは安息日を汚して、さらに大いなる怒りをイスラエルの上に招くのである」。

一九そこで安息日の前に、エルサレムのもろもろの門が暗くなり始めた時、わたしは命じてそのとびらを閉じさせ、安息日が終るまでこれを開いてはならないと命じ、わたしのしもべ数人を門に置いて、安息日に荷を携え入れさせないようにした。二〇これがために、商人およびさまざまな品物売る者どもは一、二回エルサレムの外に宿った。三わたしは彼らを戒めて言った、「あなたがたはなぜ城壁の前に宿るのか。もしあなたがたが重ねてそのようなことをするならば、わたしはあなたがたを処罰する」と。そのとき以来、彼らは安息日にはこなかった。三わたしはまたレビびとに命じて、その身を清めさせ、来て門を守らせて、安息日を聖別した。わが神よ、わたしのためにまた、このことを覚え、あなたの大いなるい



